

## 研修旅行 国会議事堂見学と皇居・東御苑の参観添乗記

春の研修日、3月28日は、例年だと桜が満開で、皇居東御苑は入場制限の可能性ありと、対策も考えたが、今年は気温が上がらず、開花が一週間遅れて無用の心配をしました。

当日は天候も良く、集合時間の朝8時20分には、ほとんどの会員さんが集まっていました。定刻に出発し、見学地の国会議事堂へと向かい、秋元部長の司会で、自己紹介はそれぞれの方の思いで行い、車内は盛り上がりました。

国会議事堂は、昭和11年に帝国議会議事堂として建設され、当時は日本一の高さを誇り美しい御影石で装われた議事堂は「白亜の殿堂」と称賛されたそうです。



議事堂内は衛視の案内と説明で、普段テレビでは、殺伐とした画面を見せられていますが、会議のない議事堂は見学者の他、あまり人はいなく、それでも何か威厳を感じた。

食事は、毎回参加している人が言うには、今年の弁当は、美味しいとお褒めの言葉を頂いた。

また秘書の説明で、国会議事堂内の道路は、議員さんが分刻みで動いているのと、イライラがあるらしく、道路交通法に関係なく？猛スピードで運転しているため注

意して、との説明がありました。

予定どおり国会議事堂を後に皇居に移動し、衛視の案内で、始めに講堂内で400名位の参観者が一同に、大画面のビデオによる皇居内の説明を受けた。その後衛視の後に続いて各所に400名位が説明を受けながら移動した。



私は初めての参観なので、ここに天皇皇后両陛下が、お住まいしていると聞き、心が引き締まる思いでした。皇居東御苑は、皇居造営の一環として皇居東地区の、旧江戸城の本丸・二の丸・三の丸の一部を、宮殿の造営に合わせて皇居のお庭として整備された。天守閣は当初、石垣の高さは14メートルあり、その上に我が国最大の天守閣がそびえていた、明暦3年(1657年)の大火で焼失した後は、再建されずに、石垣が堂々と天守台(石垣の

高さは10メートル)として残っている。

また三の丸尚蔵館は昭和から平成へと時代が移るのにもない、平成元年(1989)に皇居から美術・工芸品類6000点余が国へ。平成8年に故秩父宮妃からご遺贈品、平成13年に香淳皇后のご遺品が、さらに平成17年に故高松宮妃からご贈答品が国に寄贈され、現在約9500点の作品が収蔵されているそうです。これらの美術品・工芸品類に関心のあるグループもありました。

東御苑は皇居の庭園として、天皇皇后両陛下のお住まいになっている皇居の一角で、豊かな自然や歴史に思いをはせながら、桜の花や梅、バラなど四季の変化やいろいろの花々が見られるように、いろいろな樹木、草花が植えられている。

大手門を入ると、自由行動で、三の丸尚蔵館のグループと、100人番所を過ぎて天守台のグループ、休憩所で一休みのグループに分かれる。

100人番所を過ぎて中雀門跡に来ると、遠くにどっしりとした天守台が見える、この場所に、バラ園(咲いていない)そして桜の島、桜の島には30種類位あるが、残念でしたがソメイヨシノは蕾みで、白い種類の桜が満開で綺麗でした。その蓮池濠の淵に最近話題になった、富士見多門があり、この富士見多門は、細長い建物で、ところどころに見張りようの格子戸があり、昔はここで、侵入者などを、見張っていたようです。

帰路も秋元部長の司会で、会員さんに感想を聞くと、80%位の人に、今回の旅行を評価していただきました。有難うございます、私の添乗日記と致します。